

平成21年5月30日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2008
課題番号：18530738
研究課題名（和文） 学校教育の基盤となる道德教育経営プラン開発に関する総合的・実践的研究
研究課題名（英文） Synthetic and Practical research about the development of a moral education management plan which becomes the base of the school management
研究代表者 押谷 由夫 (OSHITANI YOSHIO) 昭和女子大学・生活機構研究科・教授 研究者番号：10341926

研究成果の概要：

道德教育の充実方策については、国レベルでさまざまな提案がなされているが、学校運営の中核となる道德教育経営プランについて、各都道府県レベルの実態、市町村レベルの実態を分析し、その概要を把握した。さらに各学校においても学校運営の中核に道德教育を位置づけ計画を具体化している優れた実践がなされている。それらを分析しながら、学校教育の中核となる道德教育経営プランのモデルについて検討した。そして、優れた実践をしている学校と協力して、総合単元的な道德学習プランを提案し検証した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
総計	3,600,000	630,000	4,230,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：道德教育、道德教育経営、道德の時間、総合単元的道德学習、学校・家庭・地域連携

1. 研究開始当初の背景

教育改革国民会議の提案がなされ、道德教育について充実策が大きく取り上げられた。そのことを受けて、教育基本法の改正、学習指導要領の改訂へと進んでいくが、その前の段階として、これからの道德教育のあり方について極めて大きな関心が寄せられていた。その背景には、これだけ道德の荒廃が叫ばれているにもかかわらず、学校教育においては

必ずしも道德教育が熱心に取り組みされているわけではないという実態がある。

わが国の道德教育に関する研究は、国内外の倫理・道德思想に関する倫理・哲学的研究、道德教育の歴史に関する歴史的研究、道德意識調査や社会的動態等をもとにした社会学的研究、諸外国の道德教育の実態と比較をもとにした比較教育学的研究、文化的・生態的側面から研究する文化人類学的研究、心の問題に焦点を当てた心理学的研究、道德教育の指導や具体的進め方等に関する教育方法学的研究など、多岐にわたっている。

道徳教育政策を考える場合には、このような視点を幅広く押さえて分析するとともに、実態に応じた具体的提案をしていかねばならない。本研究は、それらを踏まえて現在出されている様々な道徳教育のあり方に関する提案を分析しながら、各都道府県レベル、市町村レベル、学校レベルにおける取り組みを検討するところに大きな特徴があるが、それらに関する総合的な研究は、まだ十分にはなされていない。

さらに、小学校における道徳教育のかなめである道徳の時間を中心として特別活動や総合的な学習の時間、各教科、日々の学級経営、家庭・地域社会との連携等を視野に入れて、学校運営の中核となる道徳教育のあり方を学校と連携して追究し、具体的な道徳教育経営モデルを提案しようとするものである。このような取組は、学校現場においてようやく取り組まれてきているものであり、その具体的な取組について、理論的・実践的な裏づけを求めている状況にある。

道徳教育研究においては、理念的な研究と実践的な研究が十分に結びついていないという課題がある。本研究は、可能な限り、理念的な研究と実践とを結び付けようとするものである。

また、従来の道徳教育の実践的な研究は、特定の立場からのかなり限定的な研究が多かった。本研究は、道徳教育経営という概念を提唱することによって、道徳教育実践で最も大切にしなければならない総合的な取り組みの視点を持ち込み、今までの部分的な研究を包含することができる。

2. 研究の目的

本研究は、小学校に絞って、今日的課題である道徳教育をどのように進めていけばよいのかについて道徳教育経営という視点から実証的に考察し、具体的方策を提唱しようとするものである。

これからの道徳教育の方向については、文部省、文部科学省の各種審議会や部会、教育改革国民会議等において提案されてきた。そして、それらを具体化すべく様々な方策がなされているが、その成果及び具体的な進め方については十分な検討がなされていない。このことを踏まえて、本研究は、各種審議会等で提案されている道徳教育の充実方策について分析すると共に、各都道府県レベルと市町村レベルで提案されている道徳教育経営プランを分析し、優れた実践を行っている小学校と連携して実践的な道徳教育経営プランを作成する。具体的には次のことを明らかにしようとするものである。

(1) 現在出されているこれからの道徳教育のあり方についての提案をまとめる。

(2) 各都道府県レベルでの道徳教育の取り組みについてまとめる。

(3) 市町村レベルでの道徳教育の取り組みについてまとめる。

(4) 小学校における道徳教育の取り組みの実態について明らかにする。

(5) 特定の小学校と協力しながら、具体的な道徳教育経営モデルを複数作っていく

(6) それらを検証しつつモデルの精緻化を図る。

3. 研究の方法

インターネット等を通して資料を収集し分析すると共に、県として京都、広島、滋賀、茨城を、市として京都市、堺市、南足柄市、横浜市、越谷市、常陸太田市の取り組みについて現地での取材を通して実態調査を行う。代表的実践校を7校程度選定し学校運営の中核となる道徳教育経営プランの開発を行う。具体的には、

(1) 現在出されているこれからの道徳教育のあり方についての提案をまとめる。

資料としては、文部省、文部科学省の審議会等の答申、教育改革国民会議の報告書をはじめ、各界、各団体、学会等において主張されている図書や冊子、著名な研究者や教育専門家の著書や論文等によって、まとめる。その際外国の文献にもあたる。早急にまとめと分析を行う。また、専門の研究者及び実践者による専門的知識の提供や資料提供を受ける。

(2) 各都道府県レベルでの道徳教育の取り組みについてまとめる。

資料としては各都道府県で出している道徳教育施策についての冊子や予算、報告書が中心となる。この資料を収集し、分析をするとともに、研究分担者と手分けして、特に熱心に取り組んでいる県に直接伺い実情を聞くとともにより詳細な資料を収集する。また、この部分に関しても、専門の研究者及び実践者の専門的知識の提供や資料提供を受ける。

(3) 市町村レベルでの道徳教育の取り組みについてまとめる。

資料は、特に熱心に取り組んでいる市町村に限ることとする。それらの市町村から資料を収集するとともに、さらに、研究協力者が直接伺い実情を聞き、より詳細な資料を収集する。その整理や分析について、多くの研究補助者の協力を得る。

(4) 小学校における道徳教育の取り組みについての実態について明らかにする。

小学校における道徳教育の実態について

は、文部科学省の道徳教育指定校や指定地域に含まれる小学校について把握している。それらのうちから数校、それ以外の熱心に取り組んでいる学校から数校を選び、具体的分析を行う。その際、特に「心のノート」の有効活用や奉仕等ボランティア活動の取り組み、発展的学習活動等、家庭や地域社会での学びへとつなげていける教材についてもあわせて分析する。これらに関しては、研究分担者が手分けしてかかわる。

(5) 特定の小学校と協力しながら、具体的な道徳教育経営モデルを複数作っていく。

(4) で、取り上げた小学校が協力校として道徳教育経営モデルを共同で開発していく。その際、研究協力者がそれぞれの立場からかかわりより実態にあった総合的なモデルを構築していけるようにする。

(6) それらを検証しつつモデルの精緻化を図る。

精緻化を図るとは、どの学校でも使えるようなものにしていくということである。それぞれの学校の実態に応じて選択できるようにするとともに、取り組みつつ途中で評価を行いさらに取り組みを修正していけるようなモデルも作っていく。特に具体的取組のための処方箋や資料等も用意できるようにしたい。

4. 研究成果

道徳教育の充実方策については、国レベルでさまざまな提案がなされているが、県レベルや市レベルではそれらの趣旨を理解しながらより進んだ実践を行っている実態を明らかにした。さらに各学校においても学校運営の中核に道徳教育を位置づけ計画を具体化しているが、優れた実践をしている学校と協力して、総合単元的な道徳学習プランを提案し検証した。

平成20年3月に新しい学習指導要領が告示され、その具体化に向けた実践が各学校で行われるようになってきた。本研究は、新学習指導要領における道徳教育を先取りする形ですすめているため、新たに優れた研究実践をしている学校の協力も得ながらまとめを行った。

県レベルでの道徳教育の取り組みについては、滋賀県と京都府と広島県の取り組みをもとに、埼玉県や茨城県の取り組みも検討しながらまとめを行った。

(3)の「市町村レベルでの道徳教育」では、まず京都市の取組について実態調査を行った。京都市では教育センターが中心となって各学校の道徳教育研修をサポートし、さまざまな教材や指導計画等を提供している。それ

らについて分析を行った。また、堺市は、市独自に体験活動とかかわりを持たせて道徳教育の充実に取り組んでおり、内面の指導と実践の指導の統合を図る道徳教育経営プランを考える上で大いに参考になった。越谷市では、全市をあげて「越谷ドリームプラン」を構想し、各学校の特質に応じた実践を後押ししている。その「越谷ドリームプラン」は道徳教育の充実をベースとしており、今日的課題に対して道徳教育を基盤として各学校の特質を生かしながら取り組むようにしている。それらを分析し道徳教育経営プランの可能性を探った。また、南足柄市は文科省の研究開発校の指定を受け、道徳を主とした新教科を設けて道徳教育の充実を図っている。具体的な実践にかかわり共同で取り組むことができた。横浜市は学習指導要領の横浜版を作成し、独自の道徳教育カリキュラムを提案している。さらに、常陸太田市では、人権教育を全市で取り組んでおり、子どもたちの活動を主体としながら道徳性の育成を図り、気づき、考え、判断し、実践できる子どもたちの育成を図る指導計画づくりに取り組んでいる。それらと直接かかわりを持てたことから、研究を深めることができた。

(4)の「小学校における道徳教育」の取り組みについては、全国の文部科学省の道徳教育事業指定校を訪問し資料を収集すると共に協同的にかかわりをもち、研究協議を深めることができた。さらに(5)「特定の小学校との連携協力」については、8校の協力を得て具体的な取り組みを行った。

その結果、道徳教育を基盤として学校経営のあり方及び道徳の時間を要とした道徳教育のあり方について、いくつかのモデルを考えることができた。具体的な学校における道徳教育経営プランについては、研究協力を行っている8校の実践プランの練り上げと検証を元に検討しまとめを行った。特に重点的な指導において、道徳の時間を核にして、関連する教科等の学習や日常生活、家庭とも連携して進める総合単元的な道徳学習プランを開発した。

具体的には、各学期に1回程度1ヶ月くらいを単位に重点的に特定の道徳的価値に関する学習が総合的に行えるようにする。その計画におけるポイントとして

「簡単なオリエンテーションをする」・ねらいについてみんなで話し合う・おおよその学習計画を示す(子どもたちの意見もとって修正していく)・自分の目標も具体的に考え記入する。

「子どもたちの意識の連続性を考え、道徳の時間がかなめの役割を果たせるようにする」・総合単元のねらいに関して子どもたちの意識が深められたり広げられたりするよう工

夫する・道徳の時間が価値の自覚を深めるかなめの役割が果たせるようにする。

「総合単元的道徳学習用のノートを創る」・最初に計画表を貼りこの学習のねらいと留意事項、個人的課題等も書いておく・思ったことや考えたこと、感じたこと、取り組んだこと、分かったことなどを自由に書けるようにしておく・教師が必ず見て、励ましやアドバイスを与える。また、いろんな場面で書くように促す。了解を得てみんなに紹介もする。

「ねらいにかかわる道徳学習が多様に行えるように工夫する」・子どもたちのねらいにかかわる気づきや考え、興味や関心等が連続的に発展するようにする・朝の会や帰りの会、掲示、家庭や地域での学びなどを工夫する（朝読書、1分間スピーチ、学級新聞づくり、新聞記事等の紹介、ドラマや映画の紹介、本の紹介、体験の紹介や問題・課題の投げかけ等）。

「『心のノート』を活用する」
等について、抽出することができた。

その中で、できるだけ計画段階から子どもたちを参加させること、家庭も巻き込んでいくこと、そして、総合単元的道徳学習用の冊子を作り、そこに授業や日常生活で感じたこと、学んだこと、気づいたことなどを書き込んでいく。それも使って最後のほうで授業をするといった方法の有効性を確認できた。

平成20年3月に新学習指導要領が告示されたが、その道徳教育の改訂は本研究に沿うものであり、本研究は、これからの道徳教育推進の先導役を担うことができると確信できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16件)

- ①押谷由夫「人格の基盤となる道徳性を主体的にはぐくむ子どもを育てる」(日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』53巻 No. 327 2009年) 11-26頁 査読有
- ②押谷由夫「人格を磨き育てる教育の創造」(社団法人日本教育会『叢書 日本教育会』35集 2009年) 45-63頁 査読無
- ③押谷由夫「学校を子どもたち自らが人格を形成していく場に」(明治図書『現代教育科学』619号 2008年) 44-47頁 査読無
- ④押谷由夫「自分を見つめる知識・技能を身につける」(明治図書『現代教育科学』621号 2008年) 17-20頁 査読無

- ⑤押谷由夫「みんなで協力し、各教育活動の特質に応じた道徳教育を充実させる」(明治図書『現代教育科学』622号 2008年) 80-82頁 査読無
- ⑥押谷由夫「新学習指導要領と道徳教育」(日本教育(社団法人日本教育会『日本の教育』369号 2008年) 14-17頁 査読無
- ⑦押谷由夫「心をこめた丁寧な道徳の授業と道徳的風土づくり」(明治図書『現代教育科学』623号 2008年) 5-7頁 査読無
- ⑧押谷由夫「自己との対話を深められる言語力を養う」(明治図書『現代教育科学』626号 2008年) 71-73頁 査読無
- ⑨押谷由夫「これからの道徳教育の指導と評価」(日本教育評価研究会『指導と評価』648号 2008年) 4-7頁 査読無
- ⑩押谷由夫「全体構想をもとに授業を組み立て教材を開発する」(明治図書『現代教育科学』627号 2008年) 38-41頁 査読無
- ⑪押谷由夫「豊かな心の育成のポイント」(教育調査研究所『教育展望』54巻第1号 2008年) 34-37頁 査読無
- ⑫押谷由夫「『道徳』の評価観の転換を」(明治図書『現代教育科学』613号 2008年) 11-13頁 査読無
- ⑬押谷由夫・伴恒信「子どもの道徳社会的自己形成と道徳教育との関係性に関する調査研究」(日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』51巻 No. 325 2007年) 32-46頁 査読有
- ⑭押谷由夫「特別教科『徳育』の提言の意義と背景」(学校教育研究所『教育時評』13号 2007年) 4-7頁 査読無
- ⑮押谷由夫「愛国心より人間の尊厳性を」(明治図書『現代教育科学』612号 2007年) 11-13頁 査読無
- ⑯押谷由夫「道徳教育における評価の課題と展望」(日本教育評価研究会『指導と評価』634号 2007年) 28-31頁 査読無

[学会発表] (計 2件)

- ①押谷由夫「教育政策における道徳教育の理念と方法に関する考察」(日本教育社会学会 平成20年9月14日 上越教育大学)
- ②押谷由夫「転換期における日本の道徳教育—教育改革との関連で—」(日本教育学会 平成20年8月29日 仏教大学)

[図書] (計 2件)

- ①押谷由夫(編著)『各教科で行う道徳的指導』教育開発研究所 2009年 220頁
- ②押谷由夫・小寺正一(編著)『小学校学習指導要領の解説と展開—道徳編』教育出版 2008年 1-216頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

押谷由夫 (OSHITANI YOSHIO)
昭和女子大学・生活機構研究科・教授
研究者番号：10341926

(2) 研究分担者

小川哲男 (OGAWA TETSUO)
昭和女子大学・生活機構研究科・教授
研究者番号：00310392

清水満久 (SHIMIZU MITSUHISA)
昭和女子大学・生活機構研究科・教授
研究者番号：30341928

松本淳 (MATSUMOTO JUN)
昭和女子大学・総合教育センター・准教授
研究者番号：10299969

伴恒信 (BAN TSUNENOBU)
鳴門教育大学大学院
学校教育研究科・教授
研究者番号：70173119